

「ベルナール・ウェルベルのバイアス」(ラジオ番組)

「夢と悪夢」エピソード2 (2024年12月)

夢について。どのように作業が行われるのでしょうか？

私たちの生活や存在について誤解されている部分があり、その部分にかんして、精神分析がある一定の作業を発明したことはよく知られています。その部分とは夢であり、私たちが夜に見る夢のことです。

精神分析は夢についての作業です。なぜならそれは1900年のこと、フロイトとともに精神分析が発見したことでもあるからです。『夢の解釈』、これは20世紀初頭の本です。ですから精神分析は、夢について作業します。なぜならある意味において、精神分析が「夢とはひとつの作業である」ということを、発見したからなのです。

『夢の解釈』のなかで、フロイトは夢を理解するための鍵を提供しています。それは夢が私たちの経験を、その夢の作業—ふたつの有名な操作—により、変質させる方法のことです。ふたつの操作とは、「圧縮」と「置換」のことになります。

夢の顕在内容は、ある内容を隠しています。フロイトはそれを潜在内容と呼んでいます。したがって、夢が行ったこと〔圧縮と置換〕を解体する必要があるのです。私たちの経験について、夢が操作を加えた偽装を、取り除かなければなりません。そうすることで、夢の背後にある私たちの経験をふたたび見いだすことができます。とりわけ私たちがそこから解放されることができるのです。

この「解放する」という語は、あまりに誤解の多い、人生のひとつの次元にも、私たちを導くものです。

精神分析にはたぶん、夢について作業をする深い理由があるのです。実のところ、その方法がどのようなものであろうとそうであり、結局、精神分析をめぐる理論的な多様性、諸難問、論争さえもときには、真剣に受け取られるべきものとされています。

この誤解の多い難問、精神分析のその芯とは、結局、快のために夢について精神分析が作業するわけではない、ということです。夢においてネガティブであり得るものから、私たちを解放することが問題になっています。私たちの人生を妨げているものからの解放が肝心なことであって、その夢とはときおりひとつの症状でもあります。

哲学のパスカルや、一般的に言われるように、精神分析は1時間の価値がないかもしれません。

もし仮に、セラピーのようななにかをなすものから精神分析が断ち切られていないならば、精神分析は1時間の価値はないかもしれません。夢においてネガティブなもの、あるいは、夢が私たちにとっての人生のなかでネガティブなものとして現れるものから、私たちを解放するために夢についての作業をしないようなセラピー、臨床、なにかそういうものであるならば、精神分析には1時間の価値すらないでしょう。

この意味において、精神分析はたぶんまず第一に、夢における「悪夢」について作業します。悪夢が夢のネガティブであるか、もしくは悪夢的なものが夢のネガティブであるという意味で、悪夢的であるものについて作業します。あるいは私たちの夢のいくつかにおける、悪夢的であり得るようなものについてネガティブな夢、について、精神分析は作業します。

なぜ私たちは幸せな夢について、充足している夢について作業をしたいと思うのでしょうか？

フロイトが言うように、夢は欲望を明らかにし、人生において私たちを導き、生の、愛の欲動と、エロスとを結びつけます。タナトスと結びつけるものではありません。フロイトは最後に生と死の強く生々しいアンビバレンスを発見したのですが。

夢の作業とは、ですからネガティブなものの探求でもあります。それは臨床的な探求です。

それは治療的探究です。客観的な力、ネガティブな欲動—もちろん、精神分析はつねに戦いたいと欲してきました。死の欲望とか、あるいは殺人の欲望と、戦おうとしてきました—を

明らかにするためだけではありません。

もちろん、それらネガティブな欲動を有効化することにあるわけではありません。あるいはセクシャリティー自体におけるネガティブなものを有効化するのでもありません。

それとは反対に、そこから解放され、私たちがそれらをコントロールしたり、ネガティブなイメージ私たちの人生に作用し妨げてくるような一に抵抗することを学ぶためなのです。

私たちの夢とは、個人的な夢であり、語りであることに留意してください。

夢を私たちの人生の、完全な経験のようにみなし、構築物のようにみなすことが大切です。

人生のそのような語りから、ネガティブが夢のなかに再来する仕方を見て、作業をして、それを語ったり分かち合うことで、私たちはやっとならと向き合い、悪夢から夢と人生の方向に向きを変えることができます。